

説教題：主が応えられる信仰(28～)

聖書：マタイ 15章25～28節

<口語訳>

新約聖書25～ 頁

マタイ 15章25～28節

<新共同訳>

新約聖書30～31頁

マタイ 15章25～28節

<新改訳第3版>

新約聖書31～ 頁

マタイ 15章25～28節

<塚本訳>

新約聖書114～115頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の**山上の垂訓・説教**と表現される箇所です。
- ◇本日は**マタイ25～28節**の「**主が応えられる信仰(28～)**」の主のみことばから、「**神(天)の国**」(**神の真理・真実・奥義**)を知りたいと思います。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「イエスは答えられた、「ああ、女の人、りっぱな信仰だ。願いどおりに成れ。」すると、ちょうどその時から、娘は直った」と、ありますように、「**カナンの女性**」の訴えを聞き入れ、願いの通り、彼女の娘から**悪霊**を追い出し、癒して下さいました。
- ⇒主のわざ、弟子たちの信仰、**カナンの女の信仰**について、多くの意見があります。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」の厳しさと**カナンの女の謙遜**、主の弟子たちの戸惑いという理解の立場で、主のみことばを味わいます。
- ⇒犬と言われても、主におすがりしたい。

本論；

◇本日、**マタイ書15:25～28節**から主の**使信**に**思い・心**νοῦς(nouj)をとめます。

◆**マタイ15章25～28節**；**使徒マタイ**は、「**主が応えられる信仰**(28～)」との主のみことばを通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の真理・真実**」を示しています。

◇**15:21～28節**；**塚本訳◆カナン**の女

「25 するとその女が来て、しきりに願って言った、「主よ、お助けください。」

26 イエスは答えられた、「子供たちのパンを取り上げて、(異教の)小犬どもに投げてやるのはよろしくない。」

27 しかし女は言った、「主よ、是非どうぞ！小犬どもも、御主人の食卓から落ちるパン屑をいただくのですから。」

28 そこでイエスは答えられた、「ああ、女の人、りっぱな信仰だ。願いどおりに成れ。」すると、ちょうどその時から、娘は直った。と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ15:25～28節**；「するとその女が来て、しきりに願って言った、「主よ、お助けくださ

い。」(25)」、「イエスは答えられた、「子供たちのパンを取り上げて、(異教の)小犬どもに投げてやるのはよろしくない。」(26)」、「しかし女は言った、「主よ、是非どうぞ！小犬どもも、御主人の食卓から落ちるパン屑をいただくのですから。」(27)」、「そこでイエスは答えられた、「ああ、女の人、りっぱな信仰だ。願いどおりに成れ。」すると、ちょうどその時から、娘は直った(28)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「**カナンの女の娘**」を「彼女の信仰の通りに成れ」と言い、「**悪霊**」を追い出し、癒されました。

⇒先週の箇所では、厳しく、「わたしはイスラエルの家のいなくなった羊だけにしか、遣わされていない。」と仰せになった主でした。

⇒しかし、「**御子イエス・キリスト様**」が、子供を**神の選民イスラエル**に譬え、それ以外の民を「子犬」と呼んで、**カナンの女**に語りかけましたが、**カナンの女**は、知恵をもって、「主よ、是非どうぞ！小犬どもも、御主人の食卓から落ちるパン屑をいただくのですから。」(27)」と答え、「**御子イエス・キリスト様**」の恵みのもと

に置かれ、娘の癒しを得ました。

⇒「**カナンの女**」の知恵は、教会にも、必要なものです。主の恵みが、溢れていても、必ずしも、全ての人が癒されるわけではありません。

⇒大事ななのは、主の愛と恵みの中で、「**カナンの女**」のように、ひれ伏すことです。主の恵みなしでは、何もできない私たちです。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外のところには遣わされていません」(24)と、言っておられました。「**カナンの女**」は、「**御子イエス・キリスト様のおことば**」をよく理解していました。「しかし」=「でも」、「小犬どもも、御主人の食卓から落ちるパン屑をいただくのです」(27)と、「**御子イエス・キリスト様の憐れみ**」にすぎたのです。

⇒「子犬」は、家庭で、愛顧として育てられたもので、決して野良犬ではありませんでした。

⇒イスラエルの人々は、犬を汚れたものと考えましたが、カナン・パレスチナでは、犬を大事にしており、「**御子イエス・キリスト様**」も、愛玩の「子犬」を使っておられるのです。

- ⇒主は、厳しいおことばを用いつつ、「**カナンの女**」の思いを知り、愛と恵みを注がれました。
- ⇒日本人も、イスラエルから見れば、「犬」です。
- ⇒「しかし・でも」、「小犬どもも、御主人の食卓から落ちるパン屑をいただくのです」。
- ⇒今日、殆どの教会は、異邦人の群れです。ある意味で、群衆の群れです。
- ⇒多くの人々が、主の恵みを受けても、病や怪我で苦しんでいます。
- ⇒病も怪我など多くの苦しみも、主の恵みです。苦しみ・苦難を通してでなければ、経験できない恵みがあるからです。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「**カナンの女**」に「りっぱな信仰だ」(28)と、仰せになりましたが、「りっぱ」は、「大きい」ということばです。娘の「**悪霊**」に憑かれた姿を思い、必死に主におすがりしただけだったのです。
- ⇒これも、教会への励ましで、見捨てられても、当然の罪人を主の十字架の恵みのゆえに、「**神の恵みの選民・霊のイスラエル**」と、呼ばれる身分にされているからです。「大きい」とは、主の恵みが大きいことです。

- ⇒「子犬」は、飼い主が、大事にしてくれると、素直な子犬に育ちます。
- ⇒教会も、「**御子イエス・キリスト様の恵み**」が、溢れて、**神の選民・イスラエル**のおこぼれを受けているのです。
- ⇒ただひたすら、主の恵みを受けて、身を低くさせていただき、「主の愛される子犬」であることを喜びましょう。
- ⇒**EY師**は、「**カナンの女**は、2度目には、娘が「**悪霊**」に憑かれたことは言わなかった。..ただ、助けを求めた。そそままで結構です」と、1日1章で語っています。
- ⇒【口語訳】 IIコリント12:9～10
- 9 ところが、主が言われた、「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」。それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。
- 10 だから、わたしはキリストのためならば、弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしが弱い時にこそ、わたしは強いからである。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇本日は**マタイ25～28節**の「**主が応えられる信仰**(28～)」の主のみことばから、「**神(天)の国**」(**神の真理・真実・奥義**)を知りたいと思います。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「イエスは答えられた、「ああ、女の人、りっぱな信仰だ。願いどおりに成れ。」すると、ちょうどその時から、娘は直った」と、ありますように、「**カナンの女性**」の訴えを聞き入れ、願いの通り、彼女の娘から**悪霊**を追い出し、癒して下さいました。
- ⇒主のわざ、弟子たちの信仰、**カナンの女の**信仰について、多くの意見があります。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」の厳しさと**カナンの女の謙遜**、主の弟子たちの戸惑いという理解の立場で、主のみことばを味わいます。
- ⇒犬と言われても、主におすがりしたい。
- ⇒子供のパンは、有り余っているのです。

⇒**SY師**は、①「小犬どもも、御主人の食卓から落ちるパン屑をいただくのです」のことばに、**マルコ7:27**に【口語訳】「イエスは女に言われた、「まず子供たちに十分食べさすべきである。子供たちのパンを取って小犬に投げてやるのは、よろしくない」と、「まず」とあるように、子供のパンで、おこぼれはもらえる。②「**カナンの女**」は、「子犬」を耳さとく悟り、「子犬」だから子供の食卓の屑を当然もらえると、受けとめました。③「子供のパン」を、「食卓を囲む宴会」に脹らませます、とされます。

⇒「**カナンの女**」の知恵と信仰が、「**御子イエス・キリスト様**」の心を動かしたのです。

⇒私たちも、「子犬」と、呼ばれて当然の立場です。罪と汚れに満ちた者ですが、主の十字架の贖いのゆえ、**神**に祈れるのです。

⇒エペソ2:11～13;【口語訳】

11 だから、記憶しておきなさい。あなたがたは以前には、肉によれば異邦人であって、手で行った肉の割礼ある者と称せられる人々からは、無割礼の者と呼ばれており、

12 またその当時は、キリストを知らず、イスラエ

ルの国籍がなく、約束されたいろいろの契約に縁がなく、この世の中で希望もなく神もない者であった。

- 13 ところが、あなたがたは、このように以前は遠く離れていたが、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近いものとなったのである。